

天現寺橋交差点

天現寺橋交差点は、青山方面から南下してきた筈川が渋谷川に合流し、古川と名を変える起点である。天現寺橋は、現在は暗渠となった筈川にも架かる橋であった。



昭和 40 年頃

写真提供：南麻布 4 丁目 豊田幸雄 氏

広尾病院の屋上から天現寺橋交差点を望む。都電 34 番が明治通りを走っている。大正時代には交差点の北西角に都電広尾車庫が開設され、都電の要所となっていた。



平成 21 年

明治通りと外苑西通りが交差し、首都高速の天現寺口があり、今も交通の要所となっている。

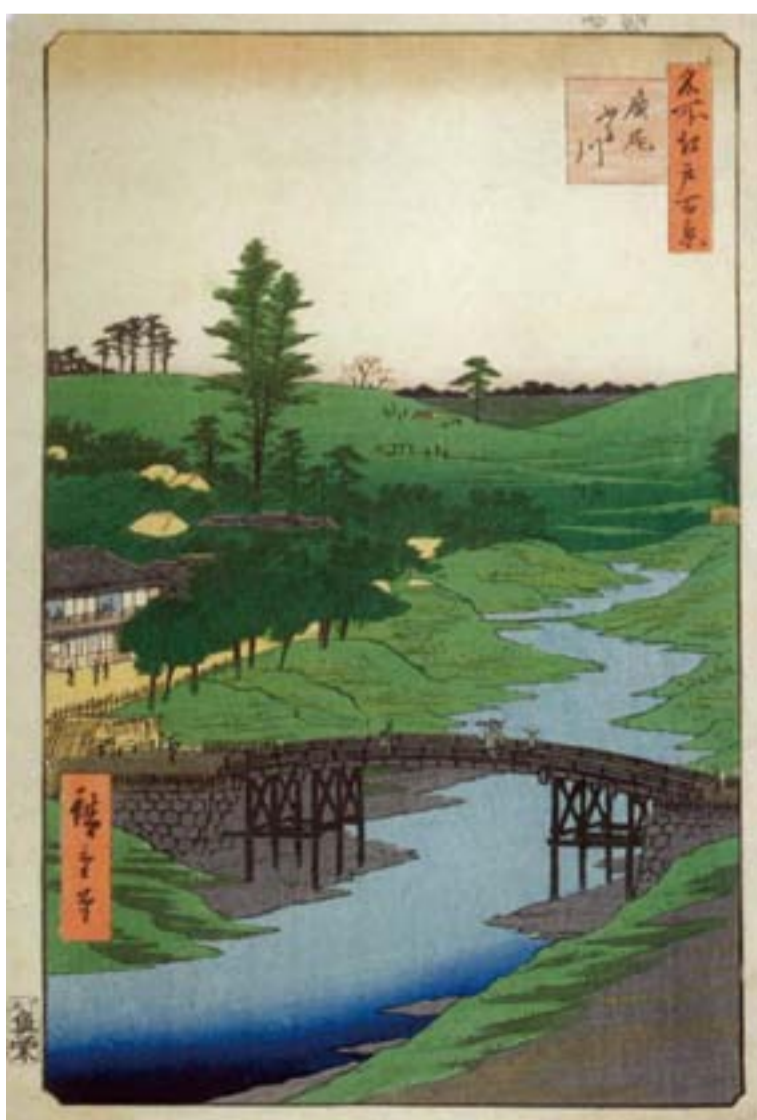
江戸時代の観光名所 四之橋 浮世絵から現代



写真提供：港区立港郷土資料館

昭和 34 年：四之橋

江戸時代には、麻布と高輪を結ぶ街道沿いにかかる橋であった。
橋の西北角に土浦藩*主土屋相模守の下屋敷があったことから、当時は相模殿橋と呼ばれることもあった。
(*現在の茨城県土浦市一帯)



「広尾ふる川」

『名所江戸百景』

初代・歌川広重作

(改印＝安政 3 年 7 月)

広尾之原（現在の都立広尾病院一帯）を背景に、古川にかかる四之橋が描かれている。



(右上)平成 22 年：現在の四之橋

(右下)平成 22 年：

欄干に設けられた由来書き

出典：『平成 18 年度特別展 UKIYO-E - 名所と版元 - 』

江戸時代の観光名所 広尾付近 江戸図絵から現代

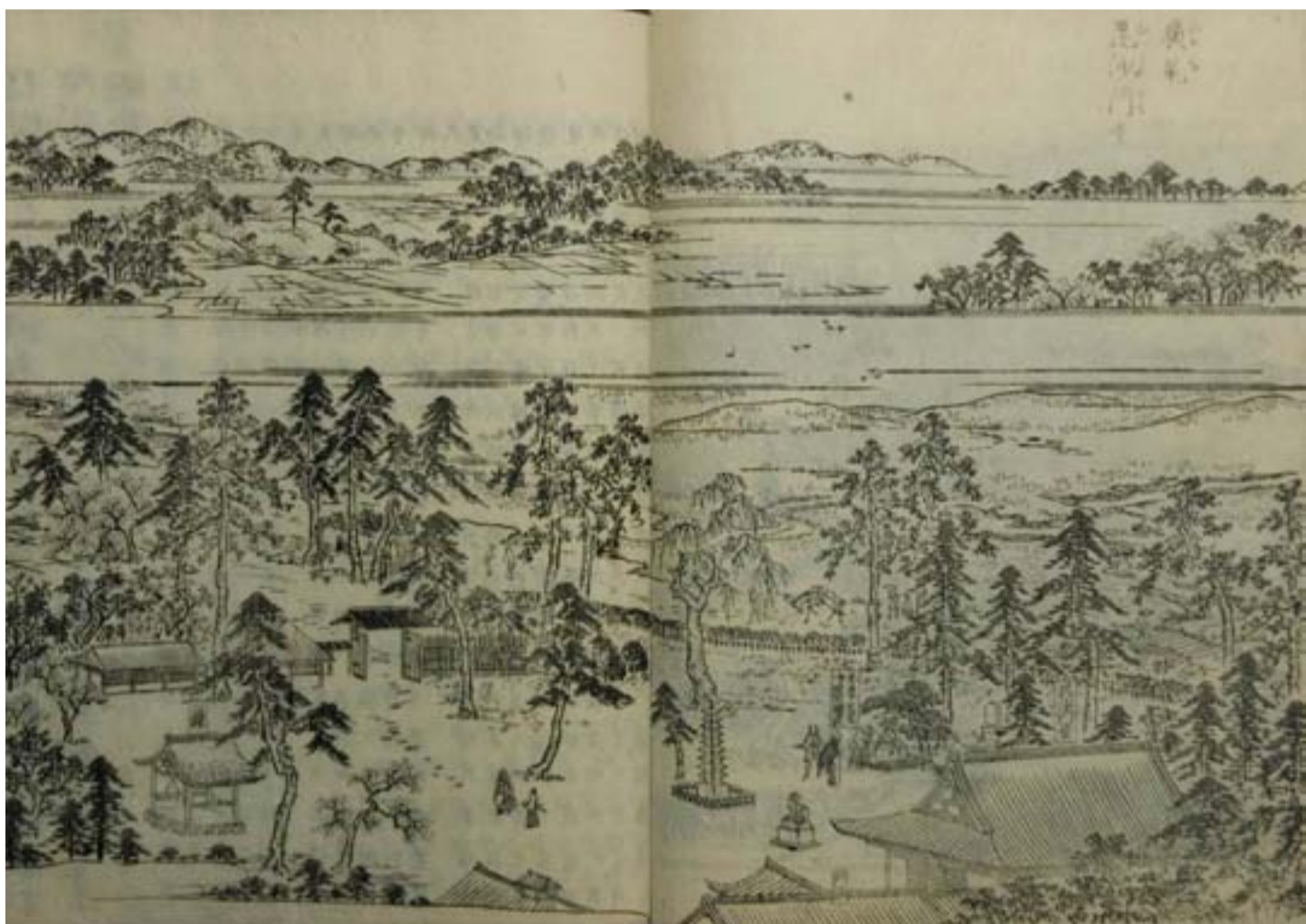


平成 5 年：広尾駅入口遠景

写真提供：田口重久氏



平成 24 年：広尾駅入口遠景



出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵

「広尾毘沙門堂(廣尾毘沙門堂)」



平成 21 年：広尾橋交差点の横断歩道から天現寺交差点方向。



平成 21 年：西洋人が多く集まるオープンカフェ



平成 21 年：広尾神社



出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵

「広尾原(廣尾原)」

広尾付近

「江戸名所図会」をみると、毘沙門堂の向こうに広大な野原と古川、筭川の流れる田園風景が広がっている。現在の東京メトロ広尾駅付近を流れる筭川の暗渠が港区と渋谷区の境界となっている。

麻布の交通「古川橋付近」



昭和 44年(1969年)：古川橋交差点

古川橋交差点より明治通り、天現寺橋交差点方面を望む。



平成 24年(2012年)



昭和 44年(1969年)：桜田通り



平成 24年(2012年)

古川橋交差点より、麻布十番方面を望む。新旧写真を比較すると、通り沿いの銀杏並木の成長ぶりがうかがえる。



昭和 42年(1967年)：古川橋交差点

このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏



平成 24年(2012年)

古川橋交差点より白金高輪駅方面を望む。白金高輪に向かう国道一号線はこの後に作られた。都電の線路ある道は魚籃坂方面に続いていた。

都電が走っていた頃(二之橋付近)



昭和42年(1967年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



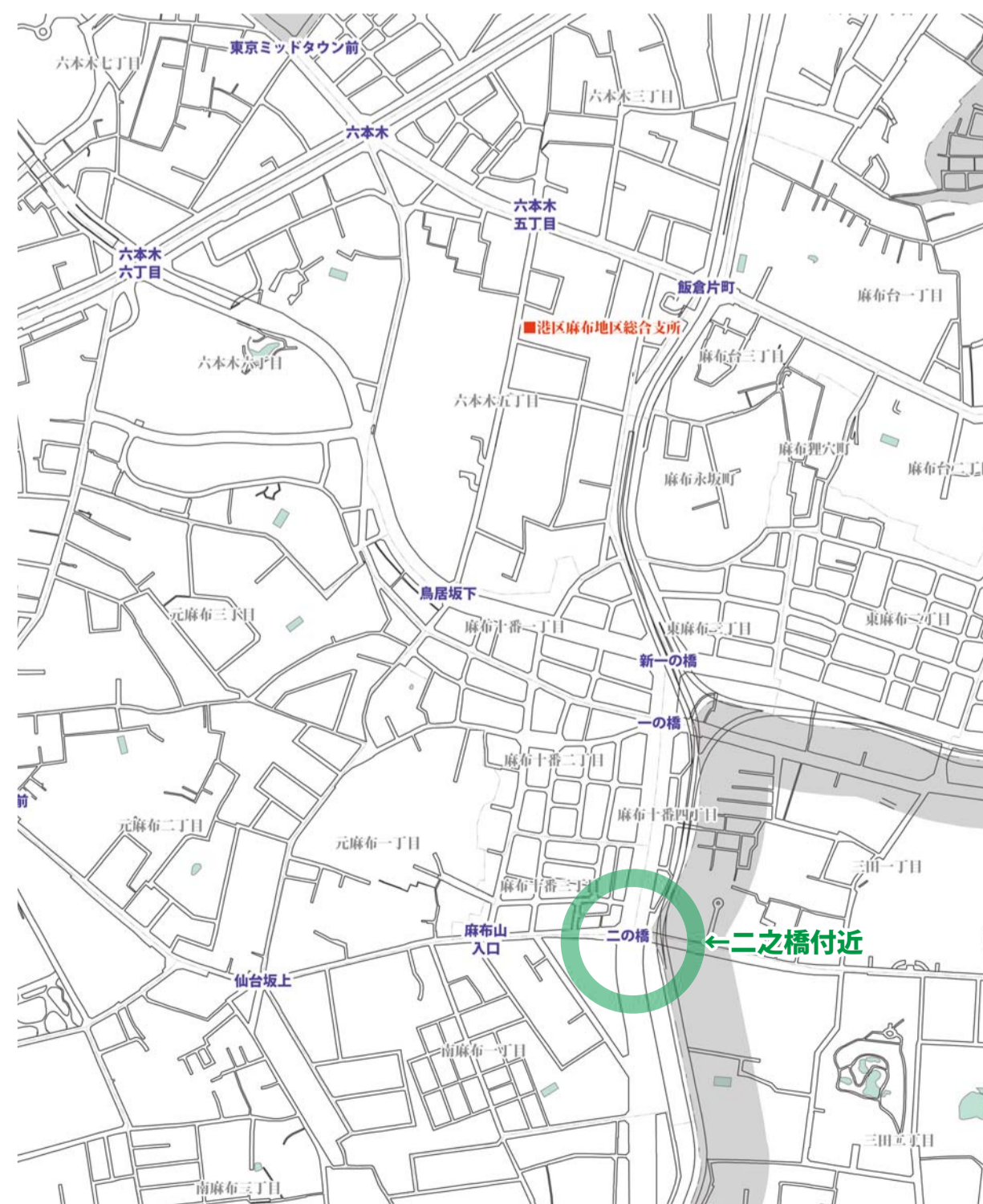
昭和43年(1968年)



昭和44年(1969年)



昭和42年(1967年)



このパネルに掲載されている古い写真については、写真提供:河村かずふさ氏

古川橋 小川書店周辺



昭和30年代頃(1955~1964年頃):古川橋 小川書店



昭和30年代頃(1955~1964年頃):古川橋 小川書店



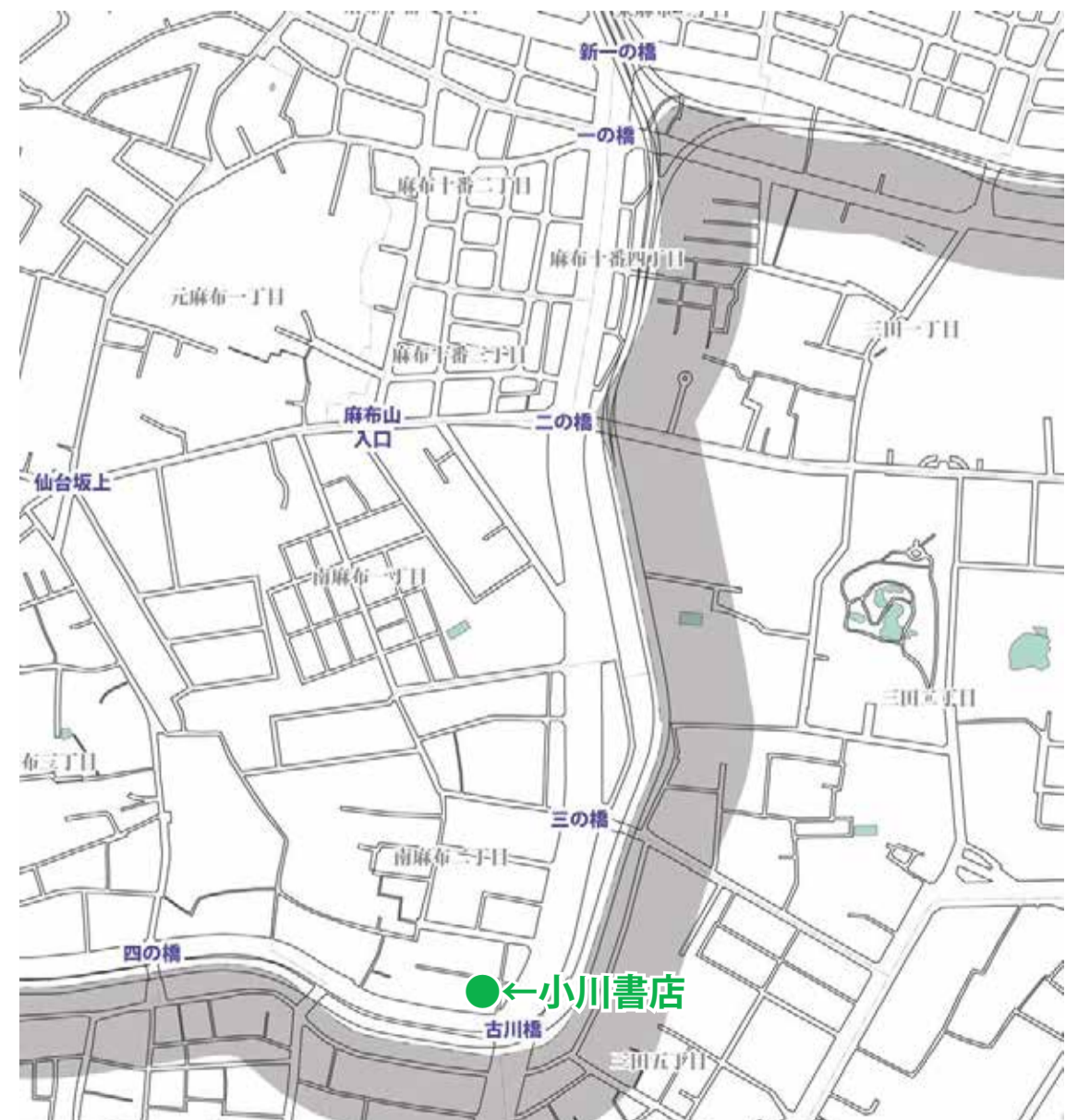
平成28年(2016年):古川橋交差点付近



昭和30年代頃(1955~1964年頃):小川書店の店頭

このパネルに掲載されている古い写真について/写真提供:小川頼之氏(小川書店)

地域情報紙「ザ・AZABU」の取材に関連して、小川書店さまより古い写真の提供を受けた。
昭和30年代・40年代から参考書や教科書ガイドが充実していて、中学生の頃から新学期になると、お金を握りしめ、何度も自転車を飛ばして買いにいった。



西麻布・南麻布の山坂(北条坂)



昭和 59年(1984年)：北条坂 坂上から



平成 26年(2014年) 北条坂 坂上から



昭和50年(1975年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：
北条坂より鉄砲坂を望む



平成26年(2014年)：北条坂 標柱



北条坂(ほうじょうざか)
坂下近く南側に大名北条家の下屋敷があったためにこの名がついた。
三田方面から二之橋、仙台坂を登り、この北条坂を降りるのが青山方面へ行く近道であり、交通量が多い道。
坂の下の部分を鉄砲坂とも言う。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

南麻布の山坂(奴坂・薬園坂・釣堀坂)



昭和 50年(1975年)：薬園坂 坂上から



昭和 50年(1975年)：
釣堀坂西から東を望む



昭和50年(1975年)：
薬園坂から下る



昭和50年(1975年)：
奴坂 坂下から

奴坂(やっこざか)

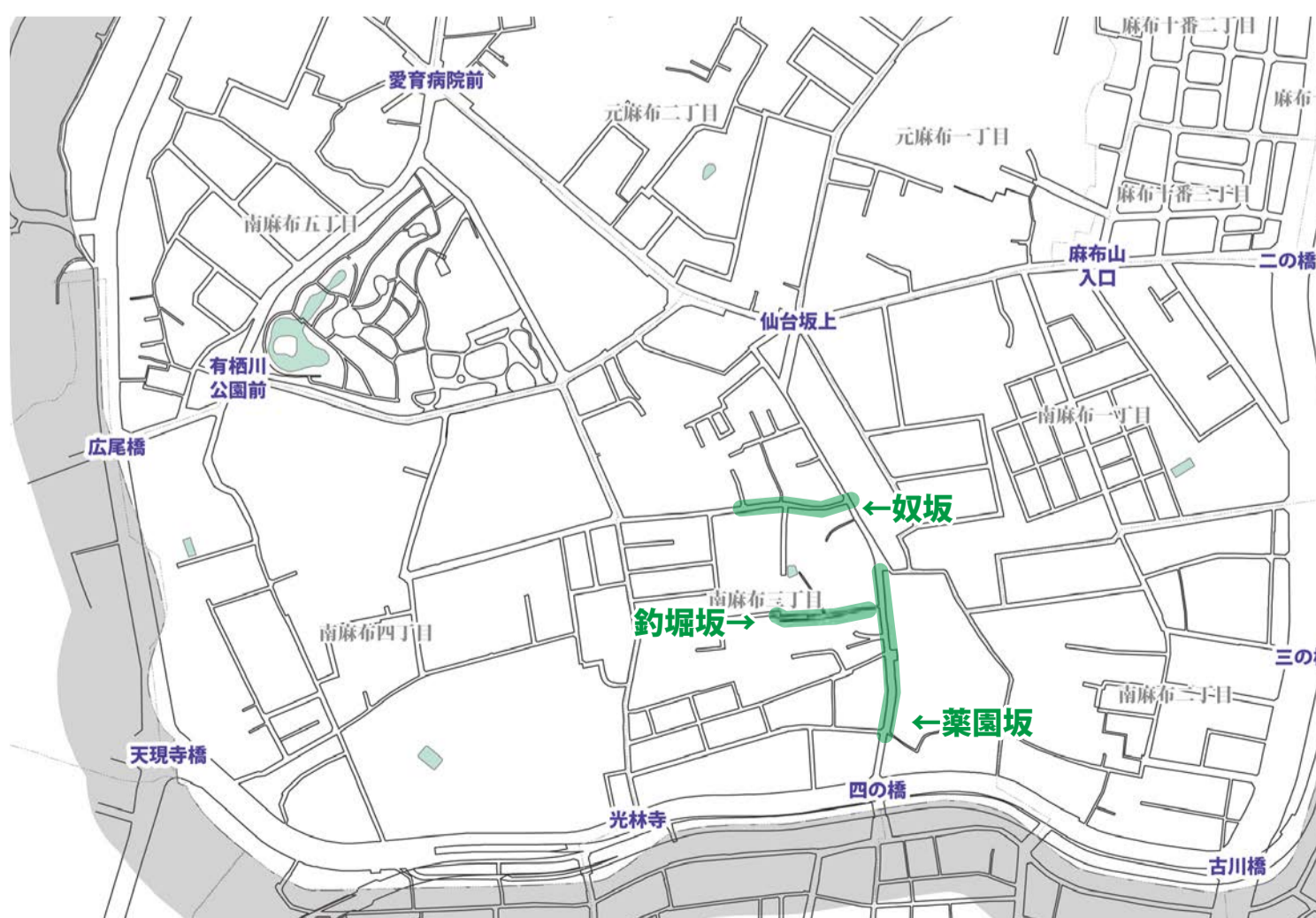
仙台坂上から南へ本村保育園を通り過ぎて行くと、右手に小さな公園がある。そこから右に下る坂が奴坂である。名前の由来はこの場所の古い名前、竹が谷の小坂で「谷小坂」、薬王坂のなまりで「やつこう坂」、「奴が付近に多く住んでいた坂」の三説がある。奴坂を下るとまた坂を登ることになり、その先に本村幼稚園と本村小学校がある。昔は奴坂の上の道の向かいに駄菓子屋があった。文房具や凧も売っていた。銀玉拳銃と銀玉を買った記憶がある。

薬園坂(やくえんざか)

麻布の台地から南東に下り、古川の四之橋に達する坂。江戸時代前期にこの辺りに幕府の御薬園があったためこう呼ばれた。薬園は徳川綱吉の頃、白金御殿の拡張のため廃止され、小石川御薬園に移されたという。この付近は東から南に面しているので日当たりが良く、薬草にも適していたのだろう。麻布台地の最南端が薬園坂上と言えよう。一帯は今も静かでのんびりした感じであり、鳥の音が大きい。

釣堀坂(つりぼりざか)

薬園坂を下り始めて程なく右に小路がある。最初の道は行き止まり。二つ目が釣堀坂だ。坂は向合いで上りになり、本村小学校へと繋がっていく。付近に釣り堀が2つあったらしいが、今は1つしかない。私の記憶では、昭和39年頃は坂下の横に小さな四角い池があり、春にはオタマジャクシが大量に泳いでいた。何匹かいただいて家に持ち帰った思い出がある。当時は、薬園坂から入って左側が石垣だったので、坂を登り下りせず、この上をつたって学校に行こうとしたが、かえって時間がかかってしまった。



このパネルに掲載されている古い写真について / 写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

麻布にある大使館(フィンランド大使館)

～2017年に独立100周年を迎えたフィンランド～



六本木時代のフィンランド大使館の貴重な写真(上3点)



フィンランド大使とフィンたん

人権とは？というドイツ大使館からの呼びかけに日本語で回答されたもの。12月10日は世界人権デー！ユッカ・シウコサーリ在日大使とフィンたんのメッセージは人権とは「多様性+寛容=人権」。(2017年)

2017年でフィンランドは独立100周年。

こちらの公式ロゴと合言葉「yhdessä/一緒に/ together」の下に、世界中でたくさんの行事やイベントが開催されました。

日本各地でも100周年を祝う様々な企画されました。



フィンランド大使館 中庭の椎の木

南麻布にある現在の大使館の場所には、以前麻布プリンスホテルがあった。建物は1983年に南麻布に移転したときに建てられ、現在も使用されている。

1983年以前、大使館は六本木にあり、その跡地は、六本木プリンスホテルを経て、再開発事業が行われた。

フィンランド大使館東京 www.finland.or.jp



日本初のフィンランドタンゴの交流会も2016年10月港区でスタート、麻布での開催も検討されているそうです。

フィンランドの文化で頭に浮かぶのは？ ムーミン？ サウナ？「フライング・フィン」と呼ばれるレーシングドライバー、などなど、イメージする方も多いのではないでしょうか？

フィンランドの音楽で頭に浮かぶのは？ クラシック音楽の巨匠、シベリウス？ フィンランドで活躍されているピアニストの館野泉、を思い浮かべる方も多いのでは？ でも、忘れてはいけないのが、現在も盛んな、フィンランドタンゴということあまり知られていません(日本でもその昔、黒猫のタンゴ、という曲が流行りました)。

南米の長調(メジャー)の情熱的なタンゴが、フィンランドに紹介されたのは1910年代と言われています。その後、第二次世界大戦の辛い時代を経るなかで、短調(マイナー)な、ちょっと物悲しい雰囲気、愛や哀愁、自然を歌い上げる、独自のフィンランドタンゴが完成していきました。フィンランドの文化の一つとして取り込まれ、成立したフィンランドタンゴ、現在も歌い・踊り続けられ、地域の交流の重要な一部ともなっているようです。

※フィンランドタンゴの交流会は、港区民のフィンランド好きの方によるイベントです。フィンランド大使館のイベントではありません。

このパネルに掲載されている写真について/写真提供:フィンランド大使館(パネル一番下、フィンランドタンゴの交流会の写真を除く)